

2018 年度国連ユースボランティア体験記

東洋大学国際地域学部国際地域学科 4 年

安納 晴菜

私は国連ユースボランティアを通して、2018 年 9 月下旬から 5 か月間、タイ・バンコクにある UNV Regional Office in Asia and the Pacific において広報官として活動してきました。

私は中学生の時、「ルワンダ大虐殺」の際に 国連難民高等弁務官事務所でご活躍された緒方貞子さんの存在を知り、憧れ、私も助けを必要としている人の希望になりたいと思い、国連で働くことを目標としてきました。そのため、大学に入学してからは、大学一年次に開発途上国での development に興味を持ち、フィリピンでフィールドワーク、コミュニティセンター設立プロジェクト、環境問題解決のためのボランティア活動を行いました。また、大学 2 年次には財団の協力を得て「難民のための多文化理解を促進する絵本プロジェクト」を実施するため、二度にわたりブルガリアへ渡航し、ブルガリアにおける難民のための多文化共生に対する理解を深めました。そして大学 2 年次の冬に、ゼミの指導教員からが国連ユースボランティアの話聞いたことをきっかけに、私の夢の実現に向かって大きく動き出すこととなりました。

今回は、国連ユースボランティアに派遣されるまでに取り組んだことや、現地での活動の様子について紹介したいと思います。

- I. 出願準備・選考
- II. 国内事前研修
- III. 現地での活動（派遣先機関、活動内容等）
- IV. 活動を終えて

I. 出願準備・選考

国連ユースボランティアの派遣生として合格するまでは、学内選考と UNV での選考（書類審査・ビデオ面接・Skype 面接）がありました。一つ一つの課題が当時の私にはとても重く、先生方にご協力をいただきながら、準備に多くの時間を費や

しました。自分自身の今までの活動を振り返るとともに、学内のランゲージセンターなども活用し、英文書類の作成にも力を入れました。UNV から採用通知が届いた時は、中学生の頃からの夢に近づけたことへの感動とともに、これまでお世話になった周りの方々への感謝の気持ちで胸がいっぱいになりました。

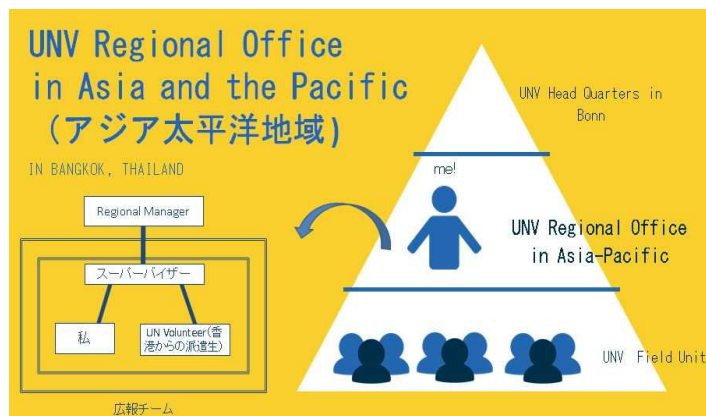
II. 国内事前研修

派遣される1ヶ月ほど前に国内で事前研修がありました。国連ユースボランティアに派遣される全学生が集まり、都内で3日間、関西学院大学（上ヶ原キャンパス）で5日間行なわれました。外務省への表敬訪問では国連概論から国際人道支援に関する講義を受け、その後国際紛争論の講義や教育開発論など、他にも国連で働く上で最低限必要な知識を学びました。もともと国際地域学部で履修していた分野がかぶっていたため、以前習ったことが講義に出てきた時は少し誇らしく、嬉しくなりました。

III. 現地での活動（派遣先機関、活動内容等）

① 派遣先機関・担当業務について

私が派遣された UNV Regional Office in Asia and the Pacific は、UNV 本部とアジア太平洋地域にあるフィールドユニットをつなぐハブオフィスとしての役割を担っており、日頃から本部とフィールドユニットとのコミュニケーションは欠かせませんでした。その中で私が所属していたコミュニケーションチームは、International Volunteer Day などのイベントの企画、運営、ソーシャルメディアを用いての情報発信や広報活動、UNV 本部やフィールドユニットとの各種ミーティングなどを行っていました。またチームはスーパーバイザーと香港からの派遣生（バディ）と私の3人で構成されていました。



(UNV Regional Office in Asia and the Pacific がある UNESCAP の外観)

②活動内容について

私は主にソーシャルメディアの運営、会議・イベントの運営サポート、広報資料の作成をメイン業務として担当していました。上記の業務を読むと「特別な知識や経験は必要ない」と思うかもしれませんが、想像以上に仕事一つ一つがスムーズに進みません。ソーシャルメディアの投稿では UNV の認知向上のために世界中の UNV で今何が起きているかなどの情報を配信していましたが、記事を一つ作成するにも、使用する写真の著作権は誰にあるのか、いつ、どこで撮られたものか、UNV のロゴはオフィシャルのものであるかどうかなど、ガイドラインに沿って作成しなければならず、派遣当初は一つの記事を投稿するにもおよそ 48 時間かかってしまいました。しかし、量をこなしていくうちに UNV 本部または Field Unit にいる仕事仲間との信頼関係も構築でき、バディの契約終了とスーパーバイザーの異動が決まり一人で広報チームを担うことになった 3 ヶ月目頃には、一つの投稿にほんの 10 分しかかからなくなりました。

また、私自身が広報担当として企画をし、採用されたものについて 2 つご紹介します。

1 つ目は、International Volunteer Day での Photo Booth です。International Volunteer Day は、世界の平和と開発に対してボランティア活動を行っている方々を称える日で、私が派遣された年に初めてタイで開催されました。そこで私は多くの方に UNV の活動を知ってもらうことを目的に、Photo Booth のパネル設置を提案したところ、採用いただき、形になった時には言葉にならない感動がありました。当日は多くの方々が Photo Booth で楽しそうに写真を撮っている姿が見られ、さらに写真を撮った方がハッシュタグと共にその写真を SNS に投稿してくださったことで、国を超えて UNV を知っていただく機会を作ることができました。この投稿は、アジア太平洋地域内で 100 万人の方々に閲覧されました。



(Photo Booth のパネルと同僚)

2 つ目は、広報用テンプレートの共有です。日常業務の中で Field Unit の仲間から相談を受けたことがありました。Field Unit には広報専門のスタッフがいなかったため、彼らは他の仕事をしながら SNS の更新などを行っていました。そのため、仕事量はとても多く、求人広告作成に時間を割くことが難しい状況でした。そこで、私

が作成したテンプレートを共有し、彼らの負担を少しでも軽減できるように努めました。すると、作業効率が上がったと Field Unit の仕事仲間からとても感謝され、今もいくつかの国のソーシャルメディアで私が共有したテンプレートを使用しているのを見かけるととても嬉しくなります。

国連ユースボランティアに派遣された5か月間で大変だったこと、苦労したことは数え切れませんが、今言えることは、問題が起こるたびに解決策を模索し、その分成長することができ、日本ではなかなか得られない経験ができたということです。派遣されてから3か月目頃に、スーパーバイザーの異動やバディの帰国により、当初3人で担当していた Regional Office の広報を一人で担っていかなければいけなくなった時は、果たして自分がこの Regional Office を担っていけるのか、そもそも自分でいいのか、そんな不安でいっぱいでした。しかし、手探りの中、仕事仲間とのコミュニケーションを今まで以上に心がけ、助けてもらいながら毎日必死に目の前の仕事をしました。すると、最初はとても心配していた Manager が徐々に私を認めてくれるようになり、最後には「この短期間ですごく成長した。担当業務にもなかった責任まで背負って、Regional Office を引っ張ってくれて本当にありがとう。」と言ってくれました。他の同僚からも「私のことを誇りに思う」という言葉をいただき、自分に自信がつけました。

IV. 活動を終えて

UNYVを終えた今、得たもの、身についたものは想像を超えたかけがえのないものでした。以前は自分に自信がありませんでしたが、仕事仲間の助けを得て自信がつき、海外で自立して働くという経験を通じて人生が180度変わりました。これからはジェンダー社会学を研究するため大学院への進学を希望していますが、今後どのような道を選ぼうと、UNYVで得た力は必ず役に立つと信じています。最後に、人として、またプロフェッショナルとして成長する機会を与えてくださった皆さんに感謝申し上げます。将来国連で働くことで恩返しをしていきたいと思えます。



(タイで行われた模擬国連に招待され、スピーチをした時のもの)



(スーパーバイザーとオフィスにて)